

# 栃木県立美術館 令和元（2019）年度事業等評価

## 1 趣 旨

令和元(2019)年度県立美術館の運営について自己評価を行い、その結果を美術館評議員会に諮り、外部評価を実施した。なお、外部評価は平成 28 年に本格実施して本年度で4回目となる。

## 2 対象期間

平成 31(2019)年 4 月 1 日から令和 2 (2020)年 3 月 31 日まで

## 3 自己評価総括

前年度の自己評価において不十分であった項目について、それぞれ目標値の達成に向けて取り組んだ。しかし、本県を直撃した大型台風や、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、入館者数等目標値を大きく下回った項目や、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、限られた財源の中で意欲的に事業に取り組み、幅広いファン獲得に向けて努力しており、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。

## 4 外部評価所見

令和元(2019)年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。

### ① 企画展の開催について

昨年度は、菊川京三展や山田耕筰展など良く研究されたユニークなものがあったと思う。また、歴史的なものから現代のものまで幅広く扱われていた。2020 年度を見ると、バラエティには富んではいるが、最新のものが減っているようなので、工夫が必要である。

### ② コロナ禍における美術教育について

コロナの影響もあり学校でもネット環境が整いつつある。ギガスクール構想で今年度中に1人1台タブレットが整備されることになった。本来なら、子どもたちに実際に美術館に来て見てもらいたいところだが、オンラインで美術館見学ができるとかネットを通じて美術に触れることができる対応を検討すべきである。

### ③ コロナ禍における公立美術館のあり方について

コロナ禍の中、このあとどうなるか分からない状況で、公立美術館のあり方について、来年、再来年も見据えて検討していくべきである。



## 5 取り組むべき課題

- ◆ 魅力ある企画展の開催
- ◆ 鑑賞環境の整備
- ◆ 新型コロナウイルス感染症への対応